

# 僕の人生これでいいのか？ レポート

このレポートは、

中学・高校・大学 それぞれの受験に全て失敗しながら、  
自分で考える力を身につけ、

高校時代の帰宅部から、

いきなり、大学入学と同時に体育会ラグビー部でラグビーを始め、

飛行機も乗ったことがないところから、

海外一人旅に出かけ、

英語もできないところから、

外資系企業に就職するも、

世の中の流れで、日本の大手企業に転職することになり、

「これで安泰だー、あとはゆっくり生きていこう」と思ったのもつかの間、  
大企業病渦巻く悲惨な状況を目の当たりにし、  
あまりの”クソ仕事、クソ人間”だらけで、

「僕の人生これでいいんか?? これじゃダメだろー」

と、本気で思い直し、

色々とチャレンジと失敗を繰り返すうちに、

僕よりも20歳も年下の若手起業家と出会い、

人生の折り返し地点に立ち、

先天性の難病を抱えた弟と一緒に働くことを思い出し、  
若手起業家に弟子入りさせてもらい、  
不労所得200万円/月の収入を目指すことになった物語です。

魂込めて書いたので  
その辺の自己啓発本より  
よっぽど内容が詰まっていると自信があります。

このレポートを読むことで  
僕のように将来に対する漠然とした  
不安を感じている人は  
解決策が見つかるでしょうし、

毎日同じことばかりで退屈だという人や、  
「とりあえずお金を稼げるようになりたい！」  
という人にも役立つはずです。

何歳になっても、最初は何も経験のない状態でも、  
人生始めることに遅すぎることはないと感じていただけるでしょう。

文章は多いけど、  
面白くて一瞬で読み終わった  
と感想を頂くこともあるので  
すぐ読み終わると思います。

では、ここから物語の始まりです。

僕は、現在、日本の大手メーカーで  
管理職を務めているが、  
3年後を目標に独立し、  
自分の会社を持つことで、

障害のある弟と一緒に

世の中に新たな価値を提供したいと考えている。

おかげで、一日が非常に短く、

うれしい悲鳴をあげている。

やることが山のようにあって、

それを一つ一つ解決していくことが

楽しく充実感がある。

この独立を決意するまでの自分は、

対照的に、人生を諦めた中年オヤジで

残りのサラリーマン人生、惰性で定年までの残りの時間を

無難に過ごせればいいや、と考えていた。

世間的には、務めている会社も、

過去の学歴も、それなりに

”褒めてもらえる”ことは多々ある。

ただ、僕自身、そんな世間体なんて、

なんの意味もない。

言葉は汚いが、

仕事は”クソ”だし、  
会社の間人も”クソ”なのだ。

山口周さんの

”NEWTYPERの時代”

という本を読んだ方はわかるだろう。

”真面目で、従順で、論理的で、勤勉な”

いわゆる”優秀な人材”が、

社会の変化とともに、

価値を失ってきているのだ。

周りの同僚たちは、皆、

偏差値の高い高学歴の人たちなのだが、

既に賞味期限切れを起こしている。

現在という時代は、モノが溢れている時代だ。

テレビはどここのメーカーのものでも大した違いはないし、

冷蔵庫、洗濯機、掃除機、電子レンジ、車、などなど、

壊れたら、その時に一番安いやつに買い換えても、

たいして問題にならない。

まあ、ちょっと見栄えがいいデザインのものを選ぼうか、

くらいの選択をするまでだ。

昭和的な、“優秀な人材”が、知恵を絞っても、  
新たな革新的な価値は、ほぼ出ないのだ。  
そして、今の若い人たちは、そんなものを  
もはや望んでいないのだ。

だけど、社内で働いている人たちは、  
クビにならないために、あるいは、  
さらに昇進を目指すために、  
いかに自分が“優秀であるか”、  
“新しい巨大な利益をもたらすか”を、  
アピールする。

誰も、それが本当に社会にとって必要だとは  
思ってもいないのに。。。

ただ、保身のために。

なので、“意味のない仕事” = “クソ仕事”が蔓延する  
という状態を引き起こす。

その結果、精神を病んで会社に来れなくなる人が続出。

モチベーション低下を引き起こし、“無意味の泥沼”にはまり込んでいく。

僕は、転職して今の会社に入ったのだが、  
最初は、正義感からそんな職場を改革しようと  
努力していた。

ただ、一人ではどうすることもできない。  
逆に、こちらが悪者にされて、潰されてしまう。

みんな、心の中では、自分たちは正しくないということを  
理解していながら、

”正しくないことを行なっている”ことを、  
他人に指摘されることを、  
ヒステリックに否定する。  
自分が間違っているということを認めたくないのだ。

日本の教育システムのせいで、  
”正解”しか認めない。誤っていることは”恥”なのだ。

僕は、こんな状況が、嫌で嫌で仕方がなかった。  
毎日が苦痛の連続だった。  
こんな生活が、あと10年も20年も続くことを考えると、

ゾツとした。

しかし、ある若手起業家と出会い、  
現在状況が変わりつつある。

このレポートで伝えたいのは、

”人生一回きり。自分のやりたいことを  
やりたいだけ、思いっきり突っ走ろう。  
世間の目なんか気にせず。”

ということだ。

その若手起業家の方と知り合うことができたことで、  
思考が正常に戻り、過去の自分の頑張っていた頃を  
思い出し、新たなチャレンジに踏み出すことができた。

ストレスに耐えながら働く必要はない。

一回きりの自分の人生だから、好きなように自分の道を歩めばいいのだ。

そういう考えに至った物語を  
話しておこう。

僕は、転職を経験した。

前の会社は外資の企業だったが、

日本のある会社との合同プロジェクトが

終わりに近づき、提携解消の可能性が大きかったので、

当時結婚したばかりの僕は、家族とともに

経営的に、より安定した環境に移行し、

さらなるチャレンジに踏み出したいと考えていた。

今の会社に変われれば、その業界の最先端に行く技術を

吸収し、新しい価値を世の中に提供していくことができると、

希望に満ちていた。

なので、この会社が自分のキャリアにおいて、

集大成となると考えて、

定年まで勤め切ることを、

いつのまにか考えるようになっていた。

ただ、どうしても人生で心に引っかかることが一つだけあった。

弟のことだ。

僕は広島で生まれ、広島で育った。

父親は、マツダの工場で働く普通のサラリーマン、

母親は専業主婦、の、ごく普通の家庭だった。

二つ年下の弟は先天性の難病を抱えて生まれた。

エーラス・ダンロス症候群。皮膚・筋肉の病気で、  
皮膚無力症、過剰弾力性皮膚と呼ばれる。

皮膚・筋繊維が異常に伸びるため、  
筋肉に力を入れることができない。

そのため、運動は当然できない、  
ボールを投げれば肩が脱臼する。

そんな家庭であったため、弟が幼いころは、  
入退院を繰り返し、母親はずっと病院で  
生活していた。

父親は、いつも幼い僕に向かって、  
“ごめんなー、さみしいだろー”と謝っていた。

なので、僕は、物心をついたころ、  
“なんで、とうさんは誤っているんだらうー？”

“弟のことか？。。。”

と、疑問をよく感じてた。

そして、自分の欲求を抑えることを  
本能的に強いていた。

誰も何も、僕に強制していないけど、  
僕は普通に、”弟の生活はどうなるんだろう？”と、  
考えるようになっていった。

小学校を卒業することには、  
”弟を幸せにできるのは僕しかいない。僕は、弟と二人で生きていこう。”  
という決断をするまでになっていった。  
”自分の力で会社を作り稼いで、弟を養っていく”、という”夢”を描いていた。  
所詮、小学生の夢であるが、純粹にそうしなければならないと  
本気で考えていた。

中学生になった僕は、両親に反抗するようになった。  
両親は、“わしらは「学」がないから、お前が勉強して、弟のことを守ってやってくれ。”  
いつも、責任逃れしているように聞こえた。  
いつも腹が立っていた。いつも、プレッシャーに押しつぶされそうだった。  
眠れない日が続き、悪夢で目が覚める日もたびたびあった。  
僕は、自分がどうすればいいかわからなかったが、  
何も知恵はなかった。

勉強して、いい大学に入って、いい会社に入れば、稼げるだろー。  
そんな、ありきたりなイメージだけで、生きていた。

が、中学受験失敗、高校受験失敗、

そして、大学受験、結果は見事に惨敗。

共通一次試験（当時はまだセンター試験ではなかった）で失敗し、

2次試験に進む点数に到達できなかった。

”2度あることは3度ある”。やはり、大学受験も失敗した。

3度も失敗するなんて、自分はダメな人間かも。。。不安と恐怖で、どん底に落ちた。

人生初めての、挫折だった。

担任の先生や友達の、同情の眼差しが

心に刺さった。強がるしかなかった。

高校の友人たちは、

何事もなかったように

自分の進路を手に入れ、

新しい生活に夢を膨らませ喜んでいた。

僕は、ただ、ただ、落ち込んだ。

何が悪かったんだろう？

そして、孤独と不安の

浪人生活を送ることになった。

弟のことも考える余裕もなくなり、

自分の問題だけで精一杯になった。

予備校に行っても、あまり身が入らず、

孤独感を紛らわせるために、友人と

おしゃべりしたり、

自習室で勉強してるふりしたり。

勉強してるんだけど、目標もなく

ただ日々が過ぎていった。

ただ、今になって思えば、この初めての挫折が、

自分の人生の始まりだったような気がする。

初めて、自分の頭を使って、物事を考え始めた。

“自分に何が足りないんだろう？”

どうすれば、高校の友人たちのように、

自分の未来を切り開いていけるんだろう？”

そんなことばかり考えていた。

勉強ではない、そんな気がした。

何かもっとシンプルな

“生きる力“というか、

“強いところ”みたいなもの  
なのかなあと、原因を探す  
毎日だった。

このころの  
いろいろと試行錯誤して  
頭の中で思考実験を繰り返す  
経験が、その後の人生にも  
役に立った。

勉強はあまり手に付かなかったが、  
なんとか国立大学 工学部に  
合格することができた。

ただ、一つ僕の中には懸念があった。

中学受験、高校受験、そして大学受験。。  
弟のこと、どれも、思うような結果を出せてない。

何か、突き抜けたような達成感によって、  
自分の力で獲得した満足感が  
まだまだ不足しているような気がしていた。

僕の中の目標は、  
高校の友人たちだ。

“なんで彼らは自らの力で  
未来を切り開いていけるんだろう？”

そんなことをひたすら考えていた。

いつしか、“なんで？なんで？”が、  
自分の中のキーワードになっていった。

小学生が見るものすべてに疑問を持つように、  
お父さんに“なんで？”って質問するように。。。

答えはなかった。

思いつくものを片っ端から試していった。

人に訊いた。本で調べた。

相変わらず、答えは見つからなかったけど、  
いろいろと試していった。

そうしていると、あることに気づいた。

僕から見ると”うまくいっている”高校の友人たちは  
皆、部活を頑張っていた。

”何かあるかもしれない”。そう思った。

どうせやるなら、一番しんどいことしてみよう。

そして、体育会ラグビー部に入部した。

そのことを、高校の友人たちに報告したら、

”あほ、ぼけ、カス、やめとけー”と  
さんざん言われた。

彼らとしては、僕をバカにしたいということではなく、  
真剣に僕のことを心配してくれていた。

変なことを考えず、大学での勉強に集中しろ、というアドバイスだ。

僕自身も ”やっぱり、だめかな。。。”と  
思うことばかりだった。

その後、何とか夏休み突入するまでの  
3か月間はラグビーを継続することができたものの、  
僕自身が、何とか使い物になるレベルまで上達できるか、  
全く自信は持てなかった。

その後、なんとか踏ん張り、  
4年生になると1本目（レギュラー）を勝ち取ることができた。  
自分の力で勝ち取ったという”達成感”を得ることができた。

ただ、”これで、本当に稼げるような人間になるのか？

まだ、バイトでしか稼いだことないし。

弟のことはどうするんだ？”

自分に納得はできていなかった。

そこで、大学院に進学し、自分の専門性を高めようと考えた。

さらには、就職先とし、外資系メーカーを選んだ。

外資で稼いだやろうという志だった。

一生懸命、必死に働いた。

しかし、日本企業との共同プロジェクトは

ストレスだらけだった。

英語を話すだけで、嫌味や嫌がらせ。

外人達が彼らと話すと、いつもニコニコして、

機嫌よく仕事を引き受ける。

僕が、外人達と同じ内容のことを同じことをお願いしても、

全く聞く耳を持たない。逆ギレされる。

”なんだそれ。。。単なる嫉妬だろー！”

”こっちだって、努力したんだ。なぜ、それがいけないんだ！”

と、心の中でいつも叫んでいた。

また、欧米人は仕事よりも家庭を優先するため、

休みをよく取る。その穴埋めで、日本人社員が

代理で彼の仕事をする。

”なんだそれ。。。郷に入れば郷に従えだろー！

もっと働けー！”

と、心の中でいつも叫んでいた。

そんな、日本と外国の文化の狭間で苦しむためか、

この会社で先輩・同期の3名が、命を落とした。

一人は、2歳年上の先輩、奥さんが出張でいない時に、自宅で倒れ3日後に発見され、

一人は、1歳年上の先輩、肝臓ガンで余命6ヶ月を宣告されて亡くなり、

もう一人は、同期、タイへ出張している時、ある朝ベットで亡くなっているのが発見された、突然死だった。

1歳年上の先輩のお葬式、同期のお葬式に、出席することができた。

”ゆうちゃん、なんでお母さんを置いていくのー！”と、泣き叫んでいるお母さんの姿が目  
に焼き付いている。

”ひどい、息子と私を置いて。。。どうするのよー！”、

奥さんが怒りながら、泣きながら、でも、寂しそうに。。。。

その横で、一人息子が無邪気に遊んでいた。

二人が亡くなった時の、ゾットするような孤独感、恐怖感、今でも忘れることができない。

ましてや、彼らのお母さんや奥さんの心の痛みは、僕の理解をはるかに超えた深い悲しみ  
だったことでしょう。

働くってどういうことなのだろう？

命を落とすまで働くのは、いいことなのか？

絶対に違うと思うのだ。幸せな人生を歩むために、働くべきなのだ。

日本人だけだろう、働くことで命を落とすのは。

アメリカ人の友人なんて、会社をクビになって喜んでいて。

”やったー、これで1ヶ月遊べる。旅行してこよう！”と言って、世界一周に出かけて行っ  
た。

イギリス人の友人は、プライベートを優先するために、契約社員の道を選んでいて。

今は、ヨーロッパの会社で、家族と一緒に楽しい毎日を生きている。

頑張るのも自由、頑張らないのも自由。

でも、日本の社会にいと、みんな一緒に頑張ることが美しいとされてしまい、  
頑張りが過ぎてしまう。

僕の中には、そんな疑問が湧き上がっていた。

ちょうど、日本の会社との提携解消の噂もあったので、  
結婚を機に、より安定した会社へ  
転職することを決意した。

そうして、外資の企業から  
純粋な日本企業で働くことになった。

これで、文化の壁も考えなくて済む。  
そして、大手企業なので安泰、  
あとは、腰を据えて、真面目に働いていれば、  
幸せな人生が送れると、思い込んでいた。

しかし、入社して愕然とした。

大企業病の悲惨さに愕然とした。

まともな人間たちが、会社という場所で  
真剣に働いているとは思えないほど、  
圧倒的にレベルが低かった。

日本の教育制度のせいだと思うが、

日本の会社では、“いかに減点されないか？”を

皆、考えながら働いていた。

彼らは頭は良かった、が、頭しか良くなかった。

人として、尊敬できるような人間が全く見つからなかった。

日本トップの大学院卒の同僚は、平然と

“おれは、チャレンジなんかしない。もし、チャレンジして

ミスったら自分が減点されてしまうからだ“

と言っていた。。。

彼曰く、

”とりあえず反抗せず、我慢して、YES MANになっとくのが、一番無難だ。  
統計的に、そんな奴が偉くなってる。だから、そうやるとけば、偉くなれる確率が上がる  
んだ。”

そう言われれば、周りはそんな会話ばかりだった。

部長：“なんだ、この報告は！お前ら、やる気はあんのかー！なんで、こんなに目標が低いんだ！やり直しー！”

部下：“はい、わかりましたー！。部長のおっしゃるように、目標を考え直してもってまいります！”

次の会議で、

部下：“目標を高くして、不可能にチャレンジするプランに変更してまいりました！”

部長：“そうだ、それでいいんだ！わかっただろ、こうやって、技術のブレークスルーを起こすんだ！わかったな！”

部下：“はい、わかりました。部長のおっしゃるように、修正したおかげで、できるような気がしてきました！”

部長：“分かりゃいいんだ、わかりゃ！”

という会議が繰り返される。

が、影では、

部下：

”あの部長、定期的に吠えるんだよねー。。。”

なので、うまく、部長の吠えるタイミングを捉えて、

報告しないと、何度もやり直しになるから、

面倒なことになるんだ。

報告、気を使うんだよねー”

と言っている。つまり、

”目標が高いとか低いとかは、大した問題じゃなくて、

どうせ、何年かすれば部長もいなくなるんで、  
それまで耐えておけばいいんだよねー（笑）”

となる。。。

転職早々、こんな話ばかりだった。

”こんなのでもいいのか？”、日に日に疑問はふくらんでいった。

が、いつしか自分も同じようなことをするようになっていた。

別の部長：”お前の報告はわからん！　ここが、ようわからん、なんだこれは！？。直せー！”

僕：”はい、了解しましたー！。では、ご指摘いただいた点を考えて、もう一度持ってきます。”

という、やり直しが6回続いた。

さすがに、もうこりごり。また修正するのがめんどくさかったので、

2回目に修正した過去の報告書を持って行って、再度報告した。

そしたら、

別の部長：”そうだ、これでいいんだ。わかったか！　こういう風を書くんだぞ！”

僕：”はい、ご指摘いただいた点が良く理解できましたー。ありがとうございましたー！”

別の部長：”うむ。”

”あれれ、2回目のやつでいいんかい（笑）！？”

。。。コントである（笑）。

報告会議は、いつもこんなストーリーで展開され、

いつしか僕は、“吉本新喜劇”を見ている気分になっていった。

今日は、誰が“池乃めだか”だろう、誰が“パチパチパンチ”だろう、誰が“バカ殿志村けん”だろう？

と、会議室の後ろの方に座り、“部長劇場”を楽しみにするようになった。

ただ、本当にこれでいいのか？という気持ちと、

これじゃダメだ、なんとかしなきゃ、という正義感と戦っていた。

なので、一生懸命働いた。

だが、また悪夢が襲った。悪夢ばかりだ(笑)。。。。

悪名高い、極悪部長が就任した。。

その部長の口癖が、

“おれが首になるから、これをしろ”。

“おれが首になるから、それはするな。”

と平然と言ってしまう始末だった。。。

自分に自信がないのか、周りの人を威圧し、  
一方で、いつも上位からの評判にびくびくしている  
小心者だった。

なので、部長への報告会議は、いつもうんざりした。

部長：“お前の報告の仕方が悪いから、内容がわからん！”

内容に対する議論はほぼなく、報告の仕方や表現など、  
どうでもいいことを、いちいち指摘し、議論を混乱させていた。

自分の理解できないことや、自分の考え方に合わないことは、  
感情的に否定しまくっていた。

なので、型にはまらない仕事の進め方をしない僕は、  
格好の標的だった。鼻につく存在なのだ。

人生で初めて、人事評価を落とされた。

サラリーマンだから、上に睨まれたら  
もうどうすることもできない。

僕は、全くやる気を失った。

周りからは、

“1回2回くらいの失敗で、やる気を失うのではなく、

それでも這い上がってくる人間が必要なんだ！”

と言う声が聞こえた。

また、

”それを乗り越えることこそ、人としての成長に繋がるんだ。”

とか。。。

”素直な人間になれ！ 上の人の言うことを”素直”に聞くことができることが、重要だ”、とされた。

本当にそう？

本当に、それを乗り越えて成長するの??

じゃあ、今、偉くなっている人たちは、成長した人たち?? 素直な人たち??

むしろ、逆なんじゃない？

成長できてないから、権力を振りかざして、人を威圧したり、

失敗にビビって、何も行動を起こさない人間に成り下がってんじゃない？

素直じゃないから、間違っていることを、間違っていると言わないんじゃない??

僕には、偉い人が幼く見えた。

どうでもよくなった。

そんなしょうもない人間と

一緒に働くことに何の意味も感じなくなった。

結局、一生懸命働いた先にあったのは、

“出世と保身と、しょうもないプライド”だけだった。

僕は、もはや、大手企業の多くは、同じように崩壊しているように思う。

時代の変化で、一生懸命働いたら、売上が上がる時代でもなくなり、

嘘をついてでも、無理やり、成果が出ていることにするしかなくなっている。

そのため、無理やり成果が出ていることにする議論が延々と続くことになる。

または、失敗していないように、誰のせいでもないように、うまくストーリーを偽造  
(笑) する。

年寄りの偉い人たちは、逃げ切れるように、なんとか時間稼ぎをしている。

なので、僕は必死に働くことを、自分から降りた。

そんな連中と一緒に人間になることは、真っ平御免だった。

それよりも、プライベートを充実して

家族と楽しく生きていこうと、

いろいろと趣味を広げていった。

キャンプ、温泉、サイクリング、

旅行と、妻と遊びまくった。

それはそれで楽しい生活だった。

ただ、同時に、虚しさも感じた。

そんな、趣味を楽しむ生活も3年がたつと、

やっぱり、飽きてくる。

結局、遊びと仕事のバランスが

重要なんだろうと思う。

これまでの人生で、

何かにチャレンジして、今まで不可能だと思ってたことが

できるようになることを経験しているので、

その記憶がどうしても忘れられないのだ。

昨日までできなかった逆上がりができるようになったり、  
昨日まで解けなかった数学の問題が解けたり。。。

“変化”することを、本能的に僕は求めているのだと思う。

なので、遊びだけでも変化は起きないし、  
同じ仕事をしていても変化は起きない。

また、新たなことにチャレンジして、“変化”を  
自分から起こしていくことが楽しい。

そんなときに、ある若手起業家のブログに出会った。

出会いから、自分が弟子にしてもらうまでの話は、  
プロフィールに書いた通りだ。

そして、僕は、自分の力で、世の中に価値を提供し、  
お金を頂いて生きていく道を歩み始めました。

このレポートを読んでいる人たちに言いたい。

本当に正しい情報を入手していますか？

みんな、終身雇用制は崩壊した、とか、年功序列はもはや過去の話、  
くらいのことはわかっていると思います。

じゃあ、なぜ、行動しない？

今のままではよくないということがわかっていながら。。。

失敗して、人生が崩壊するのが怖いから？

世間体が悪いから？

自分には稼ぐ能力なんてないから？

一度決めたことを覆し、安易にうまくいきそうなことを始めるのは、みっともないから？

今さら、リスク取るなんて、バカじゃない？！

僕も、同じように考えていました。

でも今は、本当に正しい情報を得ることができ、

正しい判断ができるようになりました。

そのおかげで、本来の自分に戻れ、

新しいチャレンジをワクワクしながら始めることができました。

それは、誤りでしょうか？ バカでしょうか？

今は、ITとインターネットの発達によって、

ビジネスが大きく変わっていることに気がついているでしょうか？

営業スタイルもマーケティングも技術開発も。。。。

20世紀の発想や昭和の発想を、今だに引きずっていないでしょうか？

簡単な例であれば、

今まで”ごみ”とされていた、古着も売れるようになりました。

BookOffにも本を売ることができます。

海岸で流木を集めて、Yahoo オークションに出品すれば、値段がついて売ることもできます。

とてつもない収入を得ている、ホストやキャバクラ嬢。

これらは何を意味しているのでしょうか？ 人の弱みに付け込んで、お金を稼いでいるのでしょうか？

そうではなく、むしろ、

ものが溢れ、”もの”に執着がなくなった人たちが、

”自分の心の満足を求めて、お金を使い始めた”

ということではないでしょうか？

古い服や本や流木や、楽しい時間といった、

今まではなんの価値にもならなかったものが、

”心の満足”を満たすものに変化し、

その”心の満足”を提供することが  
新しい時代の”価値”であり、”ビジネス”に  
変わったのではないのでしょうか？

僕の周りには、20代で、大手企業の部長や役員くらい稼いでいる若者がうようよいます。  
彼ら自身が、イチロー選手や孫正義社長のような、特別な才能があるスーパーマンという  
わけではありません。

もちろん、悪いことをして稼いでいるわけでも、当然ありません。

新しい技術を使って、新しい価値観で、新しい価値を提供する、新しいビジネスを展開し  
ているだけなのです。

誰も傷つけることなく、むしろお客さんにとっても喜ばれながら、  
自分にも嘘をつくこともなく、ストレスなく、本当に幸せそうな  
人生を歩んでいる純粋な若者ばかりです。

新しい時代が到来したのです。

僕は、このビジネスで、お金と時間と穏やかな心と健康を手に入れようと思います。  
そして、一人でも多く、同じような人生を送れる人を増やしていきたいと思います。

努力して、死ぬほど働いて、幸せになるのなら、  
ブラック企業で働く人たちが一番幸せになるはずです。

世の中、努力したかではないのです。頑張ったかどうかではないのです。

努力をいかに効率よく成果に変換するか、これが重要なのです。

これからの時代は、

”いかに過去を捨て”、”新しい基準を自分にインストールしてしまうこと”、そのものが重要なのです。

今、年にどれくらいの本を読んでいるでしょうか？

1日にどれだけの人と会うでしょうか？

僕の周りの若手起業家たちは、とんでもない勢いで、新しい知識を吸収しています。

とんでもない金額を投資して、とんでもない量の新たな知識を吸収しています。

とんでもない人数の人たちと会っています。

それが、最も効率的であるとわかっているからです。

会社に通って、いつも同じ人と同じような会話をしたり、

お金をケチって、本を買わない、新しい知識を吸収しないことが、非効率であるし、

それでは、お金を稼ぐ人にはならないことを、彼らは知っています。

なので、僕は過去を捨てました。半世紀生きてきた、学校で習ったような、

過去の知識や経験は、すでに賞味期限切れなのです。

新しい生き方・価値観をインストールし、新しい働き方を行うことが

幸せになることだとわかったからです。

僕も最初は、ネットビジネスをやることが不安でした。

ネットとかバーチャルな世界はよく分からないからです。

でも、そんな心配はいりません。

メールが出せて、ネット検索ができれば

なんの問題もありません。

他のツールは少しずつ覚えていけば良いのです。

おそらくビジネス初心者の方は到達するまでの

道が見えていないので、

「そんなん出来たらそりゃいいよ。  
でもそんなの出来るわけないだろ。  
出来たとしても一部の人間だろ。」  
と思うかもしれません。

でも、月収100万ぐらいなら僕の周りには腐るほどいますし完全に努力のレベルです。

ちゃんと学んで、ちゃんと仕組みを作れば、美味しいものを仲間と食べたり、旅行していても、

「あ、また売れた。」と収益が上がるのが日常になります。

その間、僕は働いていないけれど、インターネットが働いているので、

自動的に世の中に価値提供をしてくれるわけです。

で、そうなるためには知識が必要です。

知識を手に入れると、あれこれ試行錯誤しなくてもうまくいく方法が分かります。

自分で無駄な試行錯誤しなくても良いということは  
時間が短縮できるし、長期で見たらお金の節約にもなります。

知識がない人が1年かかることを  
知識がある人は1ヶ月で出来てしまう。  
ということがビジネスの世界では平気で起こります。

このような感じで、僕は、  
ブログやメルマガ、youtubeで、  
人生を良くする方法を発信しています。

人には人それぞれの、自分の物語があると思います。  
思い思いに、人生の瞬間瞬間で、何かを感じ、何かを  
変えた。または、変えたいと思ったことがあると思います。

単に、僕もその一人に過ぎません。  
何か特別な能力があるわけでもなく、  
その時できることを精一杯考えることで、  
自分なりの”生きる力”を身につけて、  
人生をより良いものにしようと  
考えてきました。

これを読んだ人が、  
現在の僕が  
閉塞感でいっぱい、  
将来に希望を見出せない

つまらない世界から抜け出して、  
新たなチャレンジに一步を踏み出したように、  
一度だけの人生を最高のものにしようと  
思ってくれたら幸いです。

では、続きはメルマガで。

感想は、どんなものでも大変ありがたいです。  
どしどし、おまちしております。

面白いメールをくれた人とは、  
スカイプやメールで会話したりしています。

また、積極的に返信してアウトプットしている人は  
最初は文章が苦手でも、どんどん上手くなっていくので、  
完璧主義にならずにどんどん進めると、  
どんどん成長していきます。

では、ありがとうございました。

フィエスタ